

樹医からのアドバイス (Vol.16)

～チャドクガの幼虫（毛虫）に注意しましょう～

出雲市樹医センター

樹医 渡部 勝

毒のある「チャドクガ」は、植物に被害を与えるだけでなく、人間も被害にあうことがあります。せん定等を行う際は、十分に気をつけて作業を行いましょう。

【生態】

幼虫（毛虫）は4月から10月にかけて年に2回発生し、成長すると25mm程度になり、チャノキ、ツバキ、サザンカなどツバキ科の葉を食害します。若齢のうちは一か所に固まって葉を食べます。成長するにしたがって樹木全体に拡散するため、放っておくと被害が広がります。成虫（ガ）は、日中、薄暗い場所にいることが多く、夜は光に向かって飛ぶ習性があります。

【人への被害】

「毛虫に刺された」とよく言いますが、毛虫から積極的に人を刺すわけではありません。チャドクガは生涯を通じて毒針毛をもち、触れるとかぶれ、強いかゆみが生じます。

被害にあった際は、粘着テープなどで毒針毛を取り、流水で時間をかけて洗い流し、こすらず、かかないようにしましょう。症状が重くなる前に迷わず医師の診察を受けることを勧めます。

【駆除】

早い段階でせん定を行い、風通しを良くしましょう。卵塊を見つけたら葉ごと切除し、成長して拡散してしまったら殺虫剤を散布します。なお、市販の毒針毛固定剤を散布し、幼虫（毛虫）を固め、葉や枝ごと切り落とし駆除するのも、毒針毛の飛散を防ぐのに効果的です。



カンツバキの葉を食害するチャドクガの幼虫